

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ア. 広報・相談体制の充実に関すること ・夜間中学入学につながる広報・相談体制の充実について</p> <p>ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること ・夜間中学における生徒の多様性に応じた教育課程の編成や指導上の工夫について</p> <p>オ. 教職員の配置・研修に関すること ・夜間中学校専門員を活用した教職員の配置のあり方や職員研修について</p>
調査研究のねらい	<p>○広報・相談体制の充実について 2010年国勢調査によると義務教育を終えていないと答えた人が大阪府内に12,195人いたが、現在大阪府内の夜間中学校で学ぶ生徒は1,048名であり、義務教育を求める気持ちがあっても夜間中学校入学に至っていない人が相当数いると思われる。平成28年12月いわゆる教育機会確保法が成立したことにより、それまで入学できなかった既卒の入学希望者も対象となったことについても、さらに広報する必要がある。義務教育を求める人すべてが夜間中学入学につながるよう、広報や相談の充実について研究する。</p> <p>○教育課程の編成や指導上の工夫について 豊中市立第四中学校には、義務教育未修了者や外国籍の者、既卒者など多様な生徒が在籍している。日本で生まれ育った生徒も義務教育未修了者や既卒だが十分に義務教育を受けられなかった者など一人ひとり学習経験や理解の仕方が違っている。また、外国籍の生徒についても、日本に来てからの期間の長短や日本語と触れ合う機会の多寡による日本語理解の状況や母国での学習経験が多様である。生徒の多様な状況を的確に把握し、効果的な教育課程の編成や指導上の工夫について研究する。</p> <p>生徒の年齢層についても17才から80才まで幅が広がっている現状から、卒業後の高校進学やその後のキャリア形成について展望をもつことができる進路指導についても研究する。</p> <p>○教職員の配置のあり方や職員研修について 日本語の習得が十分でなく母語での対応が必要な生徒やカウンセリングなどの相談を必要とする生徒等、さまざまなニ一</p>

	<p>ズをもつ生徒の状況に応じたきめ細かな指導を行うための教職員の配置のあり方や夜中専門員の活用について研究する。また、夜間中学校教職員としての生徒指導や教科指導のあり方について研修を行う。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>○広報・相談体制の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内を作成し、入学希望者などへの説明に活用した。 ・ホームページに、夜間学級の日々の様子を掲載した。 ・学校の塀に生徒募集の看板を掲示した。 ・市立公民館・図書館における展示を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 庄内公民館（7/23～29） 野畑図書館（9/27～10/24） 高川図書館（12/15～1/16） 国際交流センター（2/16～4/12） ・豊中市広報に中学校夜間学級についての記事を掲載した。 ・とよなか国際交流協会から入学希望者について学校に連絡してもらおうよう連携を図った。 <p>○教育課程・指導上の工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月当初の授業の中で、生徒個々の学習経験や既習事項を把握し、面談も行って、コース編成による授業を行った。国語科については、日本語会話の初歩から学ぶコース、小学校低学年程度の内容、小学校高学年程度の内容、中学校の内容と4コースに分けて授業を行った。数学については小学校1～4年程度の内容、小学校5年～中学校1年程度の内容、中学校2～3年程度の内容の3コースに分けて授業を行った。 ・教材の文字を大きくしたり、ルビをつけたりして理解しやすいよう工夫した。 ・学習旅行では、生野銀山や柳田國男の生家を見学して歴史学習をするとともに、囲炉裏や井戸を見て日本の昔の暮らしや母国での生活について生徒どうし交流することができた。 ・総合学習発表会では、ABコースは劇の練習を通して言葉の意味や場面の理解を深め、生徒どうし協力して練習を行い、表現することができた。CDコースの「四中夜間／いろはかるた」では、かるたの文言を生徒自らが自分の学校生活を見つめて考え、聞き手にわかりやすく発表することができた。 ・6月、11月の個人懇談を通訳者（夜中専門員）同席で行った。生徒が母語で話すことにより、学習や生活の状況、進路希望について詳しく聞きとることができたため、生徒理解が深まり事後の指導に生かすことができた。 ・通学しにくい事情のある生徒に、学校から保健所の精神保健サービスを紹介し、生徒自身が保健師に相談に行くことができた。学校と保健師が連携して対応することができた。

○教職員の配置のあり方や職員研修について

- ・生徒個々の学習状況に応じたコース編成を行い、必要に応じてチームティーチングを行った。
- ・外国語として日本語を初歩から学ぶ生徒への指導における夜中専門員（日本語指導）、夜中専門員（指導補助）の活用により、きめ細かく指導を行う事ができ、生徒の学習理解が促進された。
- ・「日本語を外国語として学ぶ生徒の指導について」をテーマに職員研修を行い、学習者に応じたカリキュラムの必要性について学ぶことができた。

【5月10日（木）】

- ・生徒個々の学習状況に応じた授業のコース分けについて検討

【6月11日（月）】

- ・広報・個人懇談について計画

【6月25日（月）～7月19日（木）】

- ・1学期個人懇談

【7月31日（火）】

- ・校内研修会（昼の職員と合同）「夜間学級について」

【9月19日（水）】

- ・公開授業（国語）

【9月28日（金）】

- ・学習旅行（生野銀山、柳田國男生家他）

【10月14日（日）】

- ・近畿夜間中学校連合運動会

【11月2日（金）】

- ・昼1年生との交流

【11月12日（月）】

- ・広報・相談のあり方について検討

【11月15日（木）】

- ・総合学習発表会

【11月19日（月）～12月20日（木）】

- ・2学期個人懇談

【11月29日（木）～30日（金）】

- ・先進地視察（東京都葛飾区立双葉中学校夜間学級）

【12月10日（月）】

- ・中豊島小学校5年生との交流

【12月21日（金）】

- ・校内研修会（生徒個々の学習状況に応じた指導について）

【2月18日（月）】

- ・校内研修会（日本語を外国語として学ぶ生徒の指導について）

【2月20日（水）】

- ・調査研究のまとめ

